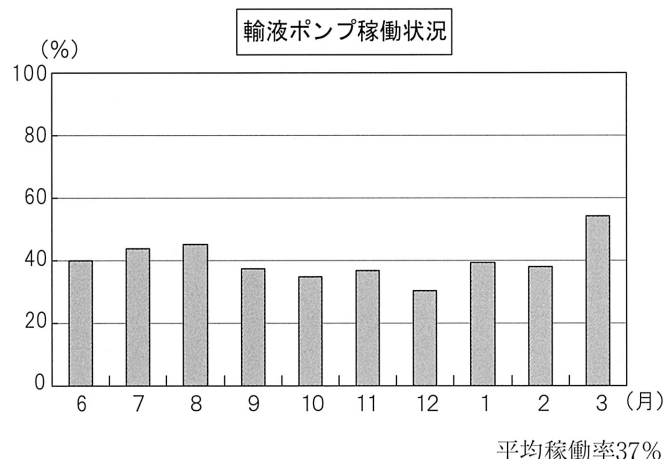
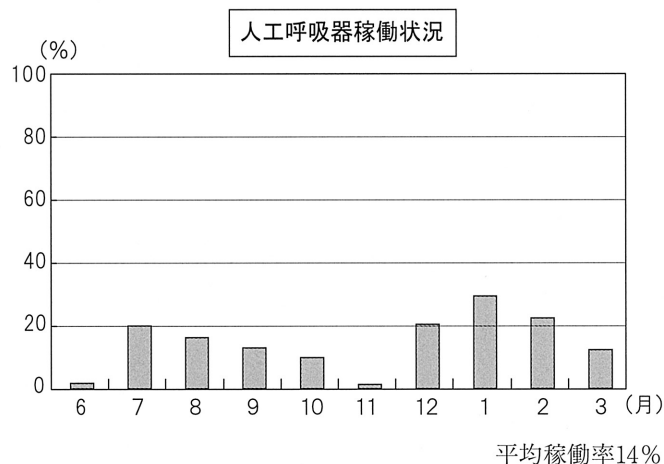


病院開設時から臨床工学技士1名の常勤にて業務を行っている。

1. ME 機器中央管理業務

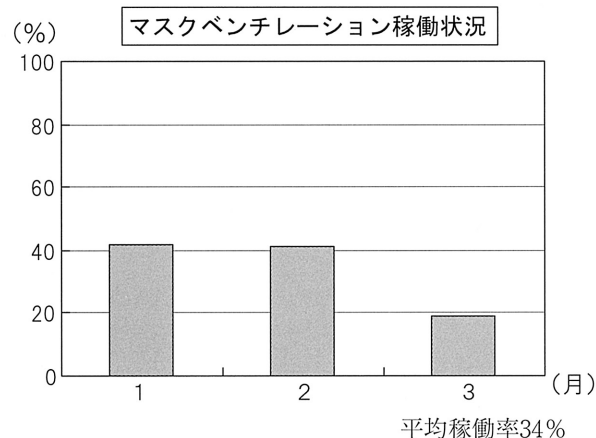
病院開設当時は、ME 機器を中央管理する部屋が無く病棟を回って点検しており、機器の管理というにはほど遠いものであったが、2003年9月にME 中央管理室の完成に伴い、本格的にME 機器の中央管理をスタートさせ、機器の貸し出し、保守点検整備及び修理を行っている。

取扱い機器は、中央管理のものでは人工呼吸器6台（マスクベンチレーションの機器2台含む）、輸液ポンプ26台、シリンジポンプ9台、経腸栄養ポンプ4台、持続皮下注ポンプ4台、メラサキューム11台、超音波ネブライザー4台その他ジェットネブライザー、移動用モニター、自動血圧計、オキシメーター等である。



輸液ポンプは各月で使用頻度に差は見られないが、人工呼吸器は格差がある。共にまだ使用状況に余裕が見られるようである。一方人工呼吸器の中でもマスクベンチレーション(N

IPPV)を12月よりレンタルして使用しているが、挿管呼吸管理が困難な患者への需要が高く、今後購入の必要性を考慮している。



2. 病棟機器の修理整備業務

機器の修理調整においては、中央管理機器によらず病棟管理の物品も行っている。依頼状況は酸素流量計が最も多く、次いで壁掛け吸引器、血圧計等である。主に国立病院時代からの引き継ぎ物品が多かったが、最近は済生会みすみ病院に移行してから新規に購入した物も劣化、故障してきているため修理物品の補充を急いでいる。

病棟の生体監視モニタの整備は、2. 3 階病棟はアンテナ配線も隅々まで行っていて、ナースステーションから遠距離にある病室でも使用に問題はないが、1 階病棟や回復期リハビリテーション病棟になる4階は不十分であり、今後の患者状況を見て早急に対処する予定である。

3. 手術室業務

新年度より泌尿器科医師の常勤によりシャント手術、尿道ステント挿入等の手術が始まることになるので、手術介助目的にて手術に参加する予定である。その他要望があれば他科の手術の手伝いも行う。

麻酔機も定期的にメンテナンスの必要性があり、定期点検をおこなっている。